

社会資本総合整備計画 事後評価書

令和05年05月19日

計画の名称	災害に強いまちづくり（防災・安全）												
計画の期間	平成31年度～令和04年度（4年間）										重点配分対象の該当		
交付対象	新潟市												
計画の目標	<p>新潟市においては、昭和39年に発生した新潟地震をはじめとする度重なる自然災害での経験を踏まえ、地域特性に応じた対応が図られるよう「安心安全」の土台をより強固にする取り組みを進めてきている。</p> <p>天野地区においては信濃川の氾濫等による洪水浸水想定区域であるが、浸水時における一時避難場所が未整備であるため、隣接地区の公園に避難している状況である。</p> <p>現在、天野地区において国土交通省信濃川下流河川事務所が整備を進めている河川防災ステーションの整備とあわせて、災害時における一時避難場所となる地区緊急避難施設を整備することにより、一時避難場所及び災害発生時における地区防災活動の中心となる施設として活用するほか、</p> <p>平時においては、地区住民の防災意識の向上のため地区内での防災訓練を実施するなど、防災活動の強化及び災害に強いまちづくりを目指す。</p>												
全体事業費（百万円）	合計（A+B+C+D）	105	A	102	B	0	C	3	D	0	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C+D)	2.85	%

番号	計画的成果目標（定量的指標）	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
		R1当初		R4末
1	<ul style="list-style-type: none"> 新潟市江南区天野地区における、一時避難場所への避難時間を短縮 江南区天野地区における一時避難場所への避難時間（分） 	15分	分	8分
2	<ul style="list-style-type: none"> 新潟市江南区天野地区における、住民等の災害時の一時避難場所の確保 江南区天野地区における一時避難可能区域の割合（％） 施設内受入可能人数（180人）/天野地区住民のうち、地区緊急避難施設の一時避難所へ避難が想定される住民（552人）= 32.6% 	0%	%	33%
3	<ul style="list-style-type: none"> 新潟市江南区天野地区における、生命確保期における災害備蓄の充実 江南区天野地区における災害備蓄率の割合（％） 避難想定人数（552人）の防災資機材を保管するために必要な収容面積（0m2から90m2に） 	0%	%	100%

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	○	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-	避難確保計画の策定	避難行動要支援者名簿の提供
新潟市国土強靱化地域計画に基づき実施される要素事業：A、C全て（全体事業費の合計は105百万円）														

A 基幹事業																					
基幹事業(大)	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用 便益比	個別施設計画 策定状況		
												H31	R02	R03	R04	R05					
		一体的に実施することにより期待される効果																			
		備考																			
市街地整備事業	A13-001	都市防災	一般	新潟市	直接	新潟市	-	-	地区公共施設等整備(天 野地区)	地区緊急避難施設、防災備蓄 倉庫 N=1箇所	新潟市						102	-	-		
		1-A-1																			
													小計						102		
													合計							102	

事後評価

事後評価の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
事業担当課にて独自に評価を実施。	令和5年5月
	公表の方法
	新潟市のホームページによる。
事業効果の発現状況	
定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	整備された地区緊急避難施設に、防災倉庫機材が納入されており、令和5年6月4日に一時避難場所に指定されることから、天野地区における一時避難場所への避難時間の短縮、一時避難可能区域及び災害備蓄率の割合の向上が図られた。
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況（必要に応じて記述）	本事業の実施に当たっては地元住民や地元消防団と意見交換を行いながら整備を行ったことから、意見交換の過程を通じて地元の防災への意識が高まり、結果として地域防災力の向上に寄与することができた。
特記事項（今後の方針等）	
今後、地域の防災活動等の拠点として活用されることが見込まれており、天野河川防災ステーションと一体的に利活用されていくことで、防災活動の強化及び災害に強いまちづくりに寄与していくことが期待されている。	

目標値の達成状況		
番号	指標（略称）	
	目標値 / 実績値	目標値と実績値に差が出た要因
1	一時避難場所への避難時間（分）	
	最終目標値	8分
	最終実績値	8分
2	一時避難可能区域の割合（％）	
	最終目標値	33％
	最終実績値	36％
3	災害備蓄率の割合（％）	
	最終目標値	100％
	最終実績値	100％